

◆◇◆ 師や士のつく職業 ◆◇◆

聖職者、教職者、師や士のつく職業。

これらの職業は貴いものとされている。

それ故その職にあるものは他の職業には無い特権的な権利や法によって守られているし、には高い報酬を約束されているようなものもある。

国家試験や様々な修業を経て、その資格を手にするわけであるが、それだけでプロフェッショナルになれるわけでも、社会から認められるわけでもない。

多くの人たちは、其処で勘違いしてしまう。

資格さえ取れば、何でも許される特権を手にできると、或いは高額の報酬を求めて当然だと思ってしまうのだ。

医師や歯科医師になるには、条件によっては 1 億という費用を必要とする。そうやって得た資格や地位をどう使うかによって、その人のその職業の評価は大きく変わる。

その資格、その職業、その地位を貴いものとするものは、その資格や免許があるが故ではない。

その職責に在る者の志が貴さを生むのである。

本当のプロフェッショナルは、神の名の元でその志が自らに備わっている事を宣言する。

悲しい事に日本にはその様な神に変わりうる誓うべき場所も支えも無い。

だからこそ、その職責を全うする上で、自らを、自らと自らの職務を以って律し問わねばならないのである。

February20, 2008 / G3 wrote